

住

全国建設室内工事業協会中部支部

建築工事の中で 最も重要な内装仕上工事

最良の手引書として広く利用されている 内装仕上工事ガイドブック

身の回りにある品から大型構造物など、全てのは最後の仕上がりが大切です。仕上がが悪ければ、そのものがもつ価値を下げることにもなりかねません。住宅や事務所といった建築物も同じです。全国建設室内工事業協会は建築工事の中で最も重要な内装仕上工事を受け持つ全国の主要内装仕上工事会社とその関連会社百数十社によって昭和41年に全国新建材同業会として発足しました。中部支部も、このときに設立されました。

以来、内装仕上工事の分野を近代建築工事の技術革新と共に推し進め、建設業界に大いに貢献してきました。昭和46年に建設業法が改正され、内装仕上工事業も建設業法の定める28業種の一つになりましたが、これも当協会の努力によるものです。

昭和51年に社団法人の認定を受け、(社)全国建設室内工事業協会となりました。翌52年には「内装仕上工事ガイドブック」の初版が発行され、逐年、改訂を重ねながら内容を充実させています。このガ



イドブックは内装仕上工事に必要な資材・技術情報とともに内装仕上工事を取り巻く諸問題、経営・法律なども網羅している他、技能士・技能工の育成に役立ち、業界が待望していた基幹技能者をも誕生させました。また業界関係者ばかりか、設計事務所、諸官庁などでも最良の手引書として利用されています。



数多くの優秀な技能士を輩出

昭和54年には当協会の重要課題であった「優秀な技能者」の育成を目的にした「内装仕上施工技能検定試験」を建設省、労働省の委託を受けて実施し、技能工の国家認定への道を開きました。平成23年現在、29,875名の技能士が認定されています。

元請け・下請け関係の適正化、大規模建築空間の耐震対策事業の開拓と推進など、新分野、新市場の開拓と経営革新など協会として推進していかなければならない課題は数多く残されています。また自主管理施工の強化推進もこれからの課題です。富士教育訓練センターの活用、会員企業の技能・技術・管理体制のさらなる向上にも努めています。

DATA ■全国建設室内工事業協会中部支部

所在地：中区千代田五丁目21-21

東海ドレメビル403号

- ・昭和41年：全国新建材同業会として発足
- ・昭和51年：社団法人の認定を受け、(社)全国建設室内工事業協会
- ・昭和52年：「内装仕上工事ガイドブック」の初版発行
- ・昭和54年：内装仕上施工技能検定試験を実施